

# 発生の予防とまん延の防止について

第3回風しんに関する小委員会

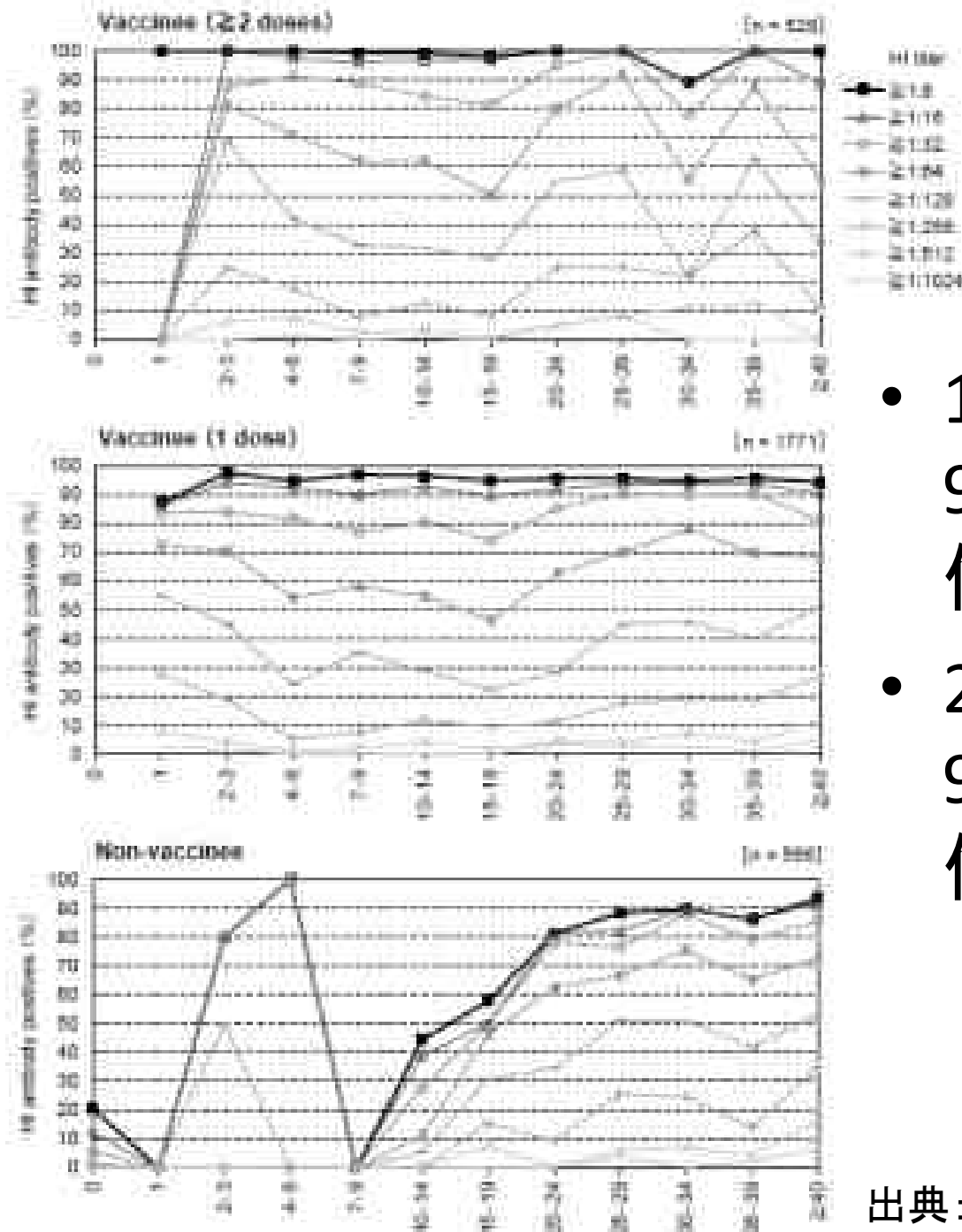
平成25年11月19日

厚生労働省 健康局 結核感染症課

# 風しんワクチンの有効性

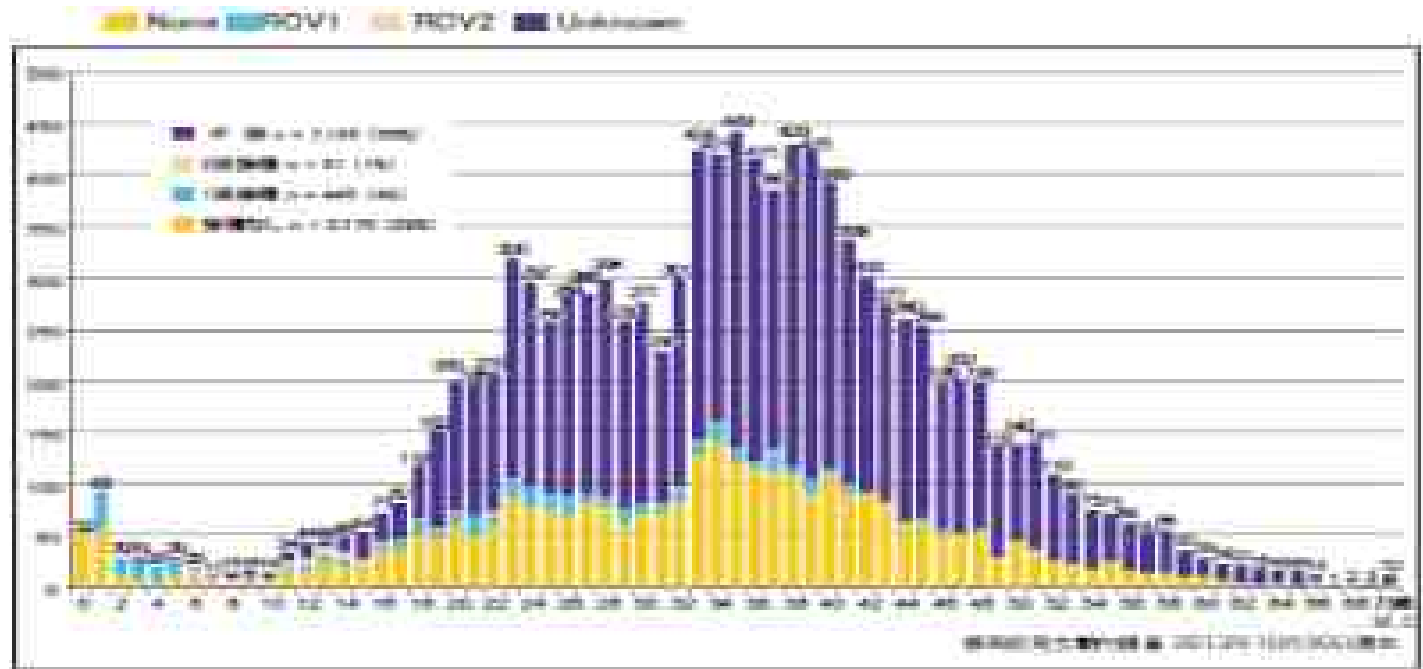
- 国内のワクチンウイルス株はTakahashi(北里)、Matsuura(微研)、TO-336(タケダ)の3種類
- TO-336については海外で使用されているRA27/3より僅かに高い抗体産生を示した報告あり(Best JM, 1974)
- 予防接種後の長期の抗体保有が報告されており、液性免疫は漸減するものの、風しんの潜伏期が2-3週間であることを考慮すると、2回目の予防接種は不要であるかもしれない(Plotkin SA, Vaccines 6<sup>th</sup> ed)
- 麻疹対策の観点から、就学前の2回接種がより望ましい(Becker NG, 1996)

# 抗体保有率

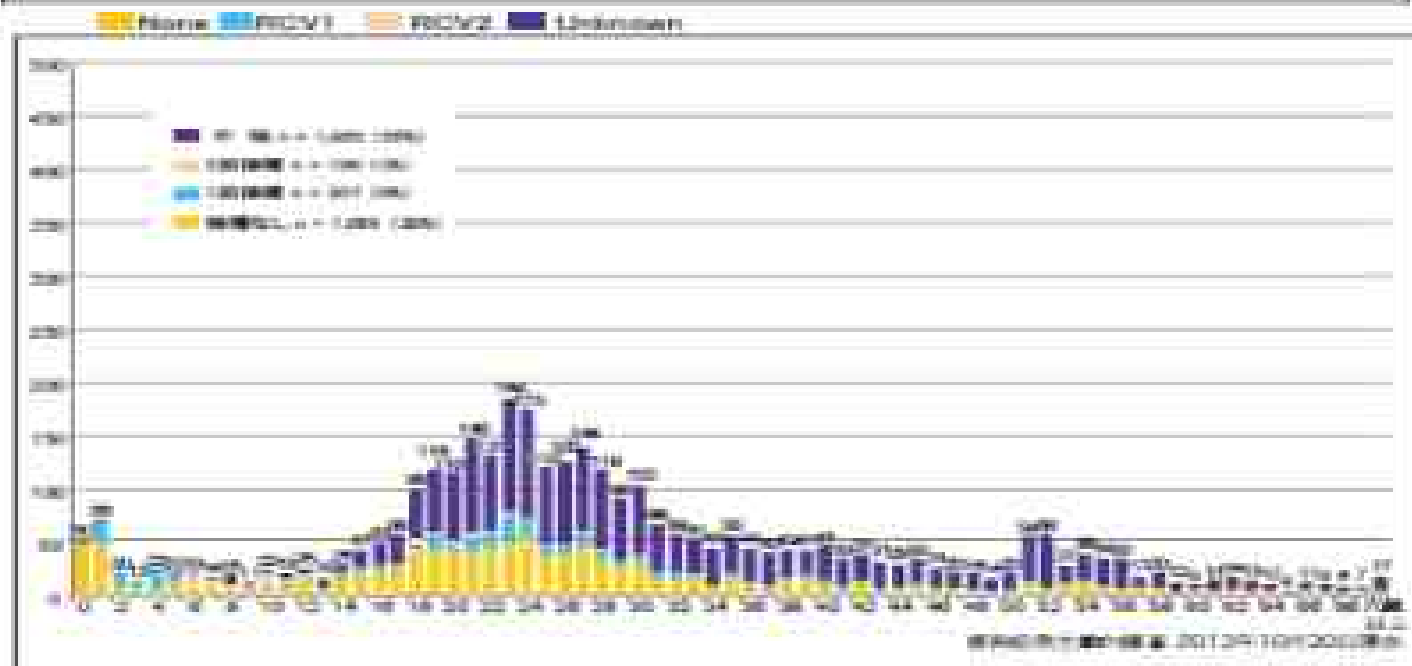


- 1回接種により約95%の被接種者が抗体を保有している
- 2回接種により約99%の被接種者が抗体を保有している

# 男性



# 女性



2013年1-43週  
感染症疫学セン  
ター作成

# 推定感受性者数

年齢	人口(男)	感受性率 (HI<8)	感受性者数	人口(女)	感受性率 (HI<8)	感受性者数
0	536,581	85%	455,588	511,683	83%	422,695
1	536,024	35%	186,705	511,676	33%	166,726
2-3	1,099,480	4%	43,117	1,048,881	4%	37,194
4-6	1,650,608	3%	50,018	1,575,222	5%	83,535
7-9	1,760,177	4%	62,418	1,675,389	4%	67,465
10-14	3,038,596	6%	182,316	2,894,853	5%	135,371
15-19	3,127,202	9%	288,221	2,965,809	8%	243,289
20-24	3,327,315	8%	253,165	3,197,433	7%	216,559
25-29	3,755,073	11%	395,271	3,635,740	3%	98,857
30-34	4,273,258	27%	1,171,700	4,147,503	5%	210,000
35-39	5,002,095	21%	1,038,571	4,861,584	3%	152,454
40-49	8,514,289	13%	1,139,459	8,386,859	4%	358,924
1-49	36,620,698	平均14%	5,266,549	35,412,632	平均6%	2,193,069

1-49歳に推計7,459,617名の感受性者

2010年の流行予測調査結果、人口動態統計より算出

# 特に予防対策が必要な方々

- 妊娠を希望する女性
- 十分な抗体を保有していない妊婦に接する機会が多い方
  - ⇒ 家族、児童福祉施設等の職員、学校等の職員等
- 風しんに罹患すると重篤な合併症を引き起こす体力の弱い方々等と接する機会が多い方
  - ⇒ 医療関係者等
- 風しんが流行している地域への渡航者
  - ⇒ 海外渡航者等

これらの方々は、より確実に免疫を保有しておくことが望ましいと考えられるがいかがか？

# 抗体価の解釈について

抗体価による予防効果は一般に以下の通りと考えられるが、いかがか？

HI法抗体価	予防効果
8倍未満	免疫を保有していないと考えられる
8倍・16倍	過去のウイルス感染やワクチン接種により、免疫を保有しているため、ウイルスに感染しても免疫反応により、風しんの発症を予防、または軽症化できると考えられる
32倍以上	過去のウイルス感染やワクチン接種により、より高い免疫を保有しているため、ウイルスに感染しても即座の免疫反応により、その影響を最小限度にとどめることができると考えられる

# 予防接種の接種基準について

- 一般に、風疹含有ワクチンの接種歴、若しくは風疹の確実な既往歴がない方々、又は検査の結果、風しんに対する免疫を保有しない(HI法8倍未満)ことの判明した方々が、予防接種により免疫を獲得することが重要であると考えられるがいかがか？
- 免疫保有者のうち、妊娠を希望する女性等の、感染の影響を最小限度にとどめる必要性がある方々については、より高い免疫(例としてHI法32倍以上)を獲得することが望ましいと考えられるがいかがか？